

小 学 校

令和4年度

# 教育研究員研究報告書

音 楽

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の仮説	2
III	研究構想図	2
IV	研究内容	3
V	検証授業	4
	〈指導事例1：第3学年〉	4
	題材名「せんりつのとくちょうをかんじとろう」	
	〈指導事例2：第2学年〉	7
	題材名「くりかえしをつかって音楽をつくろう」	
	〈指導事例3：第6学年〉	11
	題材名「音楽に思いをこめて」	
VI	研究の成果と課題	15

## 研究主題

### 「主体的・協働的に音楽に親しみ、音楽経験を生かして

### 生活を明るく潤いのあるものにする児童の育成」

～児童が学びを深め、高め合う指導の工夫～

#### I 研究主題設定の理由

平成 29 年 3 月に告示された小学校学習指導要領が令和 2 年度から全面実施となり、3 年目を迎えた。「教育課程部会における審議のまとめ」（中央教育審議会 初等中等教育分科会 令和 3 年 1 月 25 日）では、「新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響も踏まえた上で、今後の教育課程の在り方を考えると、新学習指導要領において示された資質・能力の育成を着実に進めることが重要であり、（中略）ICT も最大限活用しながら、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する『個別最適な学び』と、子供たちの多様な個性を最大限に生かす『協働的な学び』の充実が図られることが求められる」と述べられている。

本研究員のこれまでの取組からも、子供たち一人一人の個性を大切にしながら、音楽科の資質・能力を最大限に高めていく上で、一人 1 台の学習者用端末（以下、「学習者用端末」と表記。）の利活用は重要と捉えている。また、予測困難な社会の変化を生きていく上で、自ら課題や問題点を見付け、思考力、判断力、表現力等を働かせ、他者と協働して課題を解決し、様々な困難に立ち向かっていく力を養っていくことは、今後更に必要となってくると考える。

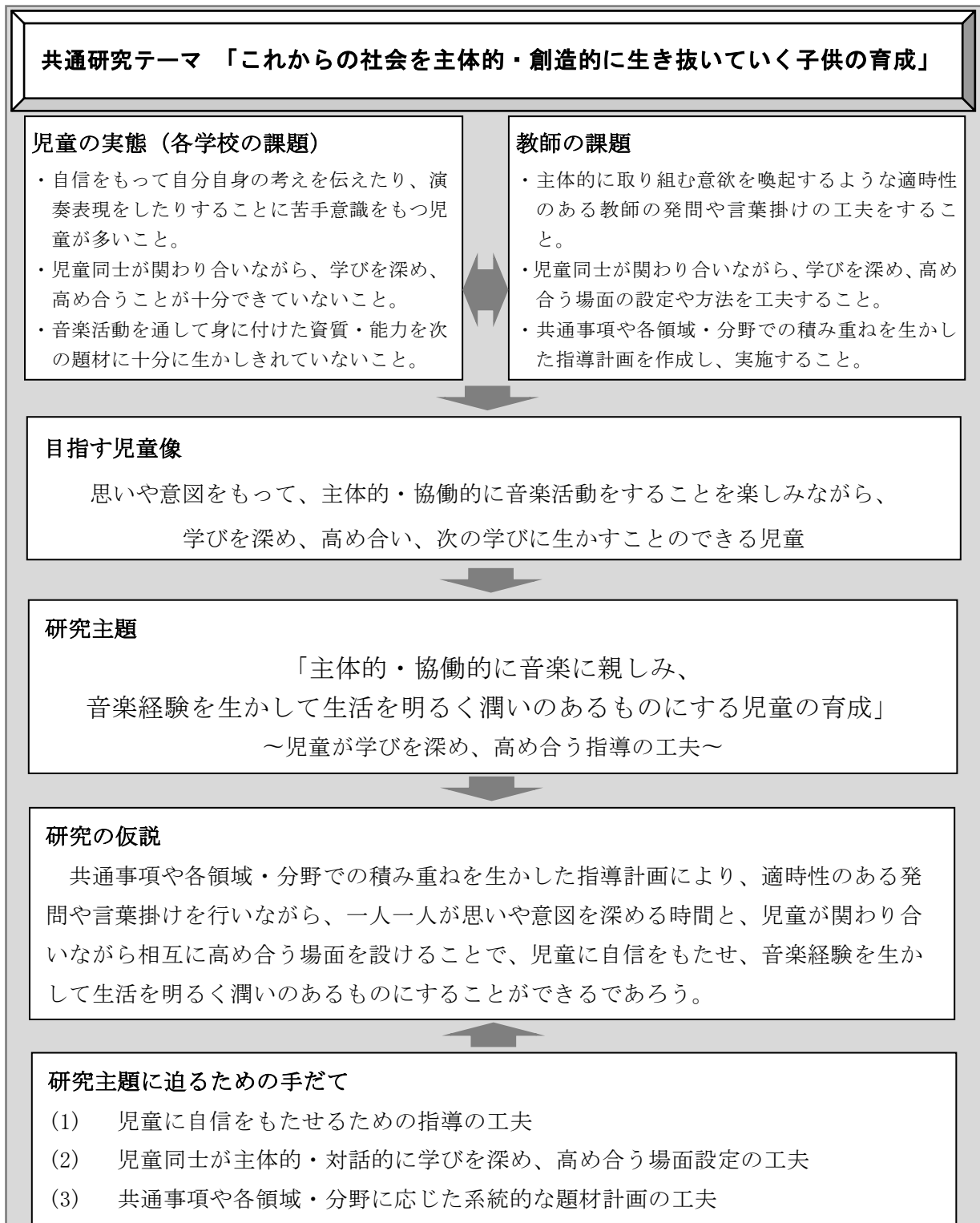
それらを踏まえ、「東京都教育施策大綱」（東京都 令和 3 年 3 月 30 日）や本年度の教育研究員共通の研究テーマを基に、小学校音楽科に関する内容を検討した。検討内容から、自信をもって自分自身の考えを伝えたり、演奏表現をしたりすることに苦手意識をもつ児童が多く、児童同士が関わり合いながら、学びを深め、高め合うことが十分できていないという課題が見えてきた。また、音楽活動を通して身に付けた資質・能力を次の題材に十分に生かされていくという実態も浮かび上がってきた。そして、音楽科での学びを通して、生涯にわたって音楽に親しみ、生活を明るく潤いのあるものにしていくために、音楽的な見方・考え方を働かせて、小学校音楽科の目標に示された三つの資質・能力を育ていけるよう支援していくことが必要であると考えた。

以上のことから、研究主題を「『主体的・協働的に音楽に親しみ、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする児童の育成』～児童が学びを深め、高め合う指導の工夫～」として設定した。

## II 研究の仮説

共通事項や各領域・分野での積み重ねを生かした指導計画により、適時性のある発問や言葉掛けを行いながら、一人一人が思いや意図を深める時間と、児童が関わり合いながら相互に高め合う場面を設けることで、児童に自信をもたせ、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにすることができるであろう。

## III 研究構想図



#### IV 研究内容

本研究では、目指す児童像「思いや意図をもって、主体的・協働的に音楽活動を楽しむことを楽しみながら、学びを深め、高め合い、次の学びに生かすことのできる児童」を具現化するための手だてを三つの視点に沿って整理し、以下の表にまとめた。手だてを講じる中で、学習者用端末の活用場面を効果的に取り入れた。また、学年や題材に応じて重点化した手だてを基に検証授業を行った。

視点	具体的な手だて	方策例
(1) 児童に自信をもたせるための指導の工夫	①指導計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考を深める過程に重点を置いた指導計画を作成する。</li> <li>・教科書やワークシート、学習者用端末等を活用し、一人一人が意見を表出できるようにする場面を設定する。</li> </ul>
	②発問や言葉掛け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の思いや意図を言語化し、音楽表現につなげる教師の意図的な言葉掛けの工夫と、児童の気付きへの価値付けをする。</li> <li>・題材を通して、児童の思考力、判断力、表現力等を高めていく中で、さらに視野を広げたり深めたりする発問をし、「本題材において特に重視したい学びを深める時間」（以下、「深めタイム」と表記。）を設ける。それにより、児童が音楽のよさや面白さを実感したり、次の題材にも生かせるようにしたりする。</li> </ul>
(2) 児童同士が主体的・対話的に学びを深め、高め合う場面設定の工夫	①主体的に活動する場面の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者用端末や思考ツールを使い、思考を整理して、一人一人が思いや考えを深めることができるようにする。</li> <li>・ループリック（※）を教師と児童が考えて設定し、主体的に活動して目標に到達できるようにする。</li> </ul>
	②対話的に活動する場面の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者用端末を活用し、全員の考えを表したりまとめたりして、共有できるようにする。</li> <li>・グループ活動時のループリックを教師と児童が共に考え、児童自身が活動時の具体的なイメージをもって対話的に活動する。</li> <li>・児童が考えを深め、高め合うために、児童同士が考えを伝え合ったり、表現して試したり、聴き合ったりする場面を設定する。</li> </ul>
(3) 共通事項や各領域・分野に応じた系統的な題材計画の工夫	①段階的な常時活動の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材の目標に沿った、段階的な常時活動等を取り入れた題材計画を立てる。</li> </ul>
	②系統的な題材計画の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通事項や既習内容を生かした指導計画を設定することで、児童が学習内容を積み重ね、本題材や次の題材の学習に生かせるようにする。</li> </ul>

※ループリック…成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を示した記述語（評価規準）からなる評価基準表。出典：「学習評価に関する資料」（文部科学省 平成28年1月18日）

※検証授業では、用いた視点・具体的な手だてを(1)－①等で示した。

## V 検証授業

### 指導事例 1

<b>題材名</b> せんりつのとくちょうをかんじとろう (第3学年)「A表現・歌唱」	<b>内容のまとめり</b> [第3学年及び第4学年] A表現(1)歌唱 及び〔共通事項〕(1)
---	--

#### 1 題材の目標

- (1) 旋律、フレーズなどの特徴や歌詞の内容と曲想との関わりについて気付き、それらを生かすために必要な表現の技能を身に付ける。
- (2) 旋律、フレーズなどの特徴や歌詞の内容と曲想との関わりについて考え、どのように表現するかについて思いや意図をもつ。
- (3) 旋律、フレーズなどの特徴や歌詞の内容と曲想との関わりに興味・関心をもち、友達と協働して歌う学習に進んで取り組む。

#### 2 指導事項との関連

A表現(1)歌唱 ア、イ、ウ(イ)

〔共通事項〕(1)ア

(本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「旋律」、「フレーズ」)

#### 3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① <b>知</b> 旋律、フレーズなどの特徴や歌詞の内容と曲想との関わりについて気付いている。 ② <b>技</b> 思いや意図にあった表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けている。	① <b>思</b> 旋律、フレーズの特徴や歌詞の内容と曲想との関わりを聴き取り、それらが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことに関わりや曲想及びその変化に合った表現について考え、どのように表現するかについて思いや意図をもっている。	① <b>態</b> 旋律、フレーズの特徴や歌詞の内容と曲想との関わりに興味・関心をもち、友達と協働して歌う学習に進んで取り組もうとしている。

#### 4 検証内容

- (1) 児童に自信をもたせるための指導の工夫
  - ・楽譜に学んだことを書き込んだり、ベン図やプロット図を活用して全体図を書いたりすることで、思考を整理できるようにする。
  - ・題材のまとめの場面で、歌詞の内容について改めて考える発問をしたうえで、「あなたの夢（こう歌いたいという思い）を届けよう！」と伝えることで児童の考えを深め、曲のよさを味わえるようにする。

- (2) 児童同士が主体的・対話的に学びを深め、高め合う場面設定の工夫
- ・学習者用端末を活用した思考ツール（座標軸）を使い、一人一人が意見を表出する場面を設定することで、一人一人の思考力・判断力・表現力を高める場面を設定する。
  - ・ループリックを全体で共有し、児童自身が活動時の具体的なイメージをもって、主体的・対話的に活動できるようにする。
- (3) 共通事項や各領域・分野に応じた系統的な題材計画の工夫
- ・常時活動として、「貴婦人の乗馬」に合わせて体を動かす活動を取り入れる。跳躍進行と順次進行で異なる身体表現をし、既習事項を想起できるようにする。
  - ・第2学年の「かねがなる」で音の高さについて学んだことを想起し、跳躍進行が多い $\square$ アと順次進行が多い $\square$ イの旋律の違いに気付き、歌い方や演奏の仕方を考えられるようにする。
  - ・第4学年の「陽気な船長」では、本題材で学んだ旋律の特徴を生かしてリコーダーを演奏し、高学年で曲想を生かした表現を考える学習につなげていけるようにする。

## 5 題材の指導計画と評価計画（全4時間）

時	○学習内容 ・学習活動	・具体的な手だて <small>本研究での視点・手だて</small>	知・技	思	態
「とどけよう このゆめを」の曲想と旋律、フレーズの特徴や歌詞の内容との関わりに気付き、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。					
1	<p>○「とどけよう このゆめを」の曲想と旋律の特徴との関わりについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・範唱を聴き、歌詞の内容や曲全体の特徴を感じ取る。</li> <li>・旋律の特徴に注目し、音符に沿って線を引いたり、ベン図を作成したりし、<math>\square</math>アと<math>\square</math>イ、それぞれの旋律の特徴を確認する。</li> <li>・旋律の特徴に合った歌い方で歌詞唱する。</li> <li>・<math>\square</math>アと<math>\square</math>イ、それぞれの旋律の特徴に合った体の動かし方を考え、通して歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>\square</math>アと<math>\square</math>イの部分に分かれていることに気付くようにする。<math>\square</math>(1)－<math>\square</math>(2)</li> <li>・第2学年での既習事項を生かし、<math>\square</math>アは跳躍進行が多く、<math>\square</math>イは順次進行が多いことに気付くよう促す。<math>\square</math>(3)－<math>\square</math>(2)</li> <li>・<math>\square</math>アは生き生きと弾ませて歌うように、<math>\square</math>イは滑らかさを大切に歌うよう助言する。<math>\square</math>(1)－<math>\square</math>(2)</li> <li>・常時活動を生かした動きになるよう言葉掛けをする。<math>\square</math>(3)－<math>\square</math>(1)</li> </ul>	↓ ①	知	観 察 ・ 発 言
2	<p>○「とどけよう このゆめを」の<math>\square</math>アをどのように歌うかについて思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>\square</math>アの旋律の特徴や歌詞の内容と曲想との関わりに着目し、座標軸を使って、どのように歌うかについて考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座標軸の縦軸は旋律の特徴について、横軸は歌詞の内容から朝日の様子について考え、朝日の位置を決めたら、その理由を付箋に書くよう伝える。<math>\square</math>(1)－<math>\square</math>(1)</li> </ul>	↓	↓	↓

	<p>歌詞の様子を 考えよう</p> <p>音の上がり下がり はげしい</p> <p>★1だん目</p> <p>リズムがはねて いて、音が大き く上がり下がり している</p> <p>音がなめら かではない</p> <p>静かな朝日 静かな風</p> <p>★3だん目</p> <p>音の上がり下 がりがおだやか だけれど、少し 明るい</p> <p>後半のせん りつがなめ らかになっ ている</p> <p>★2だん目</p> <p>★4だん目</p> <p>座標軸</p> <p>音の上がり 下がりがおだやか</p> <p>明るい朝日 やさしい風</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3人グループでの活動時のループ</li> <li>3人グループでそれぞれの思いや考えを伝え合い、歌いながら試す。</li> <li>グループごとに「ア」の特徴を生かした歌い方を確認しながら発表し、「ア」の旋律、フレーズの特徴と曲想との関わりについて、全体で共有する。</li> <li>「ア」の歌い方のまとめを、楽譜に書き込む。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ活動の際、何が大切かを考えるよう促す。(2)－②</li> <li>グループ活動の最後にループリックに沿って振り返る時間を取るようにする。(2)－①</li> <li>「ア」では、上がり下がり激しい部分があり、朝日はよりきらきらと輝くので、ハキハキと元気に歌う。」など、児童の発表に合わせてまとめる。(1)－②</li> <li>楽譜「ア」に自分が一番大切だと思ったことを書くよう助言する。(1)－①</li> </ul>	
3	<p>○「とどけよう このゆめを」の「イ」をどのように歌うかについて思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「イ」の旋律の特徴や歌詞の内容、曲想との関わりに着目し座標軸を使って、どのように歌うかについて考える。</li> <li>3人グループでの活動時のループリックを考える。</li> <li>3人グループでそれぞれの思いや考えを伝え合い、歌いながら試す。</li> <li>グループごとに「イ」の特徴を生かした歌い方を確認しながら発表し、「イ」の旋律、フレーズの特徴と曲想との関わりについて、全体で共有する。</li> <li>「イ」の歌い方のまとめを、楽譜に書き込む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>座標軸の縦軸は旋律の特徴について、横軸は歌詞の内容から風の様子について考え、風の位置を決めたら、その理由を付箋に書くよう伝える。(2)－①</li> <li>前時のループリックに付け加えがないか考えるよう伝える。(2)－②</li> <li>グループ活動の最後にループリックに沿って振り返る時間を取るようにする。(2)－①</li> <li>「イ」では、上がり下がり穏やかだが、だんだん音が高くなっていき、風はより強くなっていくので、最初はやさしく、曲の終わりに向けて盛り上げる。」など、児童の発表に合わせてまとめる。(1)－②</li> </ul>	<p>① 観察</p>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>ア</b>と<b>イ</b>を通して歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽譜<b>イ</b>に自分が一番大切だと思ったことを書くよう助言する。 <b>(1)－①</b></li> <li>・<b>ア</b>と<b>イ</b>の曲想の違いを生かして歌うよう助言する。<b>(1)－②</b></li> </ul>	発言・記述
4	<p>○「とどけよう このゆめを」の曲想を生かし、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>ア</b>と<b>イ</b>の曲想の違いや歌詞の内容を、プロット図を確認する。</li> </ul> <div data-bbox="395 663 1182 1048" data-label="Diagram"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一段ずつの歌詞の内容と、曲想を確認しながらプロット図を完成させる。<b>(2)－①</b></li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習を振り返り、歌詞の内容や旋律の特徴と曲想との関わりから、どのように歌うかを考える。 (深めタイム)</li> <li>・曲想を生かし、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う。</li> </ul>	① 観察・発言・記述 ② 技聴取

### 指導事例 2

<b>題材名</b> くりかえしをつかって 音楽をつくろう (第2学年)「A表現・音楽づくり」	<b>内容のまとめり</b> 〔第1学年及び第2学年〕 A表現(3)音楽づくり 及び〔共通事項〕(1)
---	---

#### 1 題材の目標

- (1) リズムの特徴とその反復などと曲想との関わりについて、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、反復の仕組みを用いて簡単な音楽をつくる技能を身に付ける。
- (2) リズム、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音をどのような「おまつりの音楽」にするかについて思いをもつ。
- (3) リズムの組み合わせ、反復に着目して音楽をつくる学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に音楽づくりの学習に取り組む。

## 2 指導事項との関連

A表現(3)音楽づくり ア(イ)、イ(イ)、ウ(イ)

[共通事項] (1)ア、イ

(本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「リズム」、「反復」)

## 3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①知 リズムやそのつなげ方の特徴に気付き、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付いている。</p> <p>②技 思いに合った表現をするために必要な反復の仕組みを用いて、簡単な音楽をつくる技能を身に付けている。</p>	<p>思① 打楽器のリズムや反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのような「おまつりの音楽」にするかについて思いをもっている。</p>	<p>態① リズムの組み合わせ、反復に着目して音楽をつくる学習活動を楽しみながら、主体的・協働的に音楽づくりの学習に取り組もうとしている。</p>

## 4 検証内容

### (1) 児童に自信をもたせるための指導の工夫

- ・わらべうたや手遊び歌に親しみ、曲を図形楽譜やリズム譜で示し、繰り返しが多用されていることや、リズムを繰り返すことによるよさがあるということに気付くようにする。また、児童の気付きを言語化し、自分の思いを明確にできるよう促す。
- ・教師の範奏を聴いたり、イメージマップを作成したりすることで、どのような「おまつりの音楽」をつくりたいかという思いをもち、思いを生かした演奏ができるよう指導計画を立てる。
- ・一人一人がリズムを組み合わせる音楽をつくる時間を設け、その後に全体でリズムを共有して認め合う時間を取ることで、自分で作ったリズムに自信をもてるようにする。
- ・題材のまとめとして、ペアでつくった音楽をつなげたり、掛け声を入れたりして、児童の作品を祭りの音楽により近付けることで、児童が「自分たちで『おまつりの音楽』をつくることのできた。」と実感し、自信をもてるようにする。
- ・題材のまとめの場面で教師の模範演奏を再度聴き、「繰り返しがあると『おまつりの音楽』っぽく聴こえるかな。」と発問することで児童の考えを深め、繰り返しのよさや面白さを実感できるようにする。

### (2) 児童同士が主体的・対話的に学びを深め、高め合う場面設定の工夫


- ・学習者用端末を活用（情報共有アプリケーションでのカード操作）することで、自分の思いを表現することが苦手な児童でも、同じリズムを繰り返して使うという条件の下、リズムカードを操作するだけで自分の「おまつりの音楽」をつくることのできるようにする。
- ・一人一人がイメージマップを書き、「おまつりの音楽」に対して自分の思いをもったうえで、イメージを広げられるようにする。

- ・授業の最後に、ループリックの振り返りをワークシートに書くことで、自分の学習状況を把握できるようにする。
- ・ペアで音楽をつなげる際に、リズムの組み合わせ方を工夫したり、掛け声を入れたりして、「おまつりの音楽」の雰囲気を出せるよう、友達と試行錯誤しながら音楽をつくる。
- ・授業ごとにループリックの内容を学級全体で考え、共有する。友達と協働して、目標に到達できるよう促す。


(3) 共通事項や各領域・分野に応じた系統的な題材計画の工夫

- ・常時活動として児童のつくる音楽で使用するリズムを用いたわらべうたや手遊び歌を扱い、リズムに親しめるようにする。
- ・第1学年の「ことばでリズム」では、♪と♪のリズムを使って、「タン」、「タタ」という言葉でリズム遊びをすることでリズムに親しめるようにする。この題材の学習を想起させ、本題材で「おまつりの音楽」をつくるようにする。
- ・第3学年の「手拍子でリズム」では、三三七拍子のリズムを基に、本題材で学んだ反復や変化を活用しながら、まとまりのある音楽をつくることができるようにする。

5 題材の指導計画と評価計画（全4時間）

次	時	○学習内容・学習活動	・具体的な手だて <small>本研究での視点・手だて</small>	知・技	思	態
第一 次		拍ののって体を動かしながら、わらべうたや手遊び歌に親しみ、リズムを繰り返すよさや面白さに気付く。				
	1	○わらべうたや手遊び歌に親しみ、図形楽譜やリズム譜を見て、繰り返しのリズムに気付く。 ・「おちたおちた」「トマトはトントン」「ほたるこい」「ひげじいさん」の範唱を聴き、歌って遊ぶ。 ・それぞれの曲のリズム譜を見て、繰り返しのリズムがあることに気付く。  ・繰り返しのリズムには、繰り返しの型があるということを知る。	・常時活動として児童のつくる音楽で用いるリズムを用いたわらべうたや手遊び歌を扱い、リズムに親しめるようにする。 (3)-① ・繰り返しのリズムの面白さに気付き、なぜそのように思ったのか、発言するよう促す。 (1)-② ・「繰り返しのリズムがないとどうかな。」「繰り返しのリズムがあるとどうかな。」と児童に問いかける。 (1)-② 〈予想される児童の発言〉 おもしろい、安心する、まとまる感じ、など ・繰り返しの型を提示する。 (○△○△型、○△△○型、○△○◇型、○○○○型) (1)-①	↓ ① 知	↓ 観察	↓ 発言
第二 次		繰り返しのリズムを使って、「おまつりの音楽」をつくる。				
	2	○教師の模範演奏を聴き、気				↓

次	<p>付いたことや感じたことを話し合い、口唱歌で歌ったり、竹の楽器でリズムを打ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・祭りの太鼓の演奏を聴く。</li> <li>・祭りの太鼓の演奏を再度聴き、繰り返しの型が用いられていることに気付く。</li> <li>・「おまつりの音楽」についてイメージマップを作成し、「おまつりの音楽」について思いをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「リズムに注目して聴こう。」と助言し、教師の模範演奏を聴く。〔1)－②〕</li> <li>・教師が演奏したリズムをリズム譜で示したり、リズム譜を見ながら口唱歌で歌ったり手拍子をしたりし、同じリズムが繰り返されていることに気付けるようにする。〔1)－①〕</li> <li>・作成したイメージマップを基に、「おまつりの音楽」についての思いを言語化して、全体で共有する。〔2)－①〕</li> </ul>	
3	<p>○リズムカードを組み合わせ、て、「おまつりの音楽」をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムカードのリズムを口唱歌で歌ったり、手拍子で打ったりする。</li> <li>・前時に作成したイメージマップを基に、「おまつりの音楽」について自分の思いを確認する。</li> <li>・繰り返しのリズムを用いて4小節のリズムをつくる。</li> </ul> <div data-bbox="300 1646 699 1792" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つくったリズムを口唱歌で歌ったり、竹の楽器で打ったりして確かめる。</li> <li>・「おまつりの音楽」への思いと演奏を発表する。</li> </ul>	<div data-bbox="518 795 1173 1124" data-label="Diagram"> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1学年で学んだリズムと新たなリズムをリズムカードで確認し、リズムに慣れ親しむようにする。〔3)－②〕</li> <li>・どのような「おまつりの音楽」をつくりたいのか、前時に記入したワークシートを基に確認する。〔2)－①〕</li> <li>・「繰り返しのリズムを使って、『おまつりの音楽』をつくろう。」と言葉掛けをし、学習者用端末を利用してリズムカードをつなぐ順番を試しながら、自分のリズムを決めるようにする。〔2)－①〕</li> <li>・竹の楽器で試し打ちをしながら、リズムの組み合わせを考えるよう促す。〔1)－②〕</li> <li>・「自分がつくったリズムは、『おまつりの音楽』への思いを表現できているかな。」と児童に問い、考えるよう促</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の演奏を聴き、自分のリズムづくりに生かす。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>「どの繰り返しの型を使いましたか。」</li> <li>「どのような『おまつりの音楽』にしたいと思ってつくりましたか。」と児童に問い、自分のリズムについて言葉で伝えるよう促す。(1)–②</li> </ul>	①	思	発言・記述	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○つくったリズムを互いに演奏し、聴き合う。</li> <li>友達とペアになってつくったリズムを紹介し、繰り返しに着目して聴き合う。</li> <li>つくったリズムをつなげて、ペアの「おまつりの音楽」をつくり、竹の楽器で演奏する。(深めタイム)</li> <li>ペアの「おまつりの音楽」を発表して、つくったリズムのよさや面白さを聴き合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が工夫したことを言葉で相手に伝えるようにする。(2)–②</li> <li>ペアでどのような順でつなげるかについて考えるように促す。(2)–②</li> <li>教師の模範演奏を再度聴き、「繰り返しがあると『おまつりの音楽』のように聴こえるかな。」と言葉掛けをする。(1)–②</li> <li>繰り返しのリズムを用いることによって、まとまりのある音楽になっているかということ、祭りの雰囲気が出ているかということに着目して、ペアの演奏を聴くようにする。(2)–②</li> </ul>	②	技	発言・聴取・記述	
				①	態	観察・発言・聴取

### 指導事例3

<b>題材名</b> 音楽に思いをこめて (第6学年)「A表現・歌唱」	<b>内容のまとめ</b> [第5学年及び第6学年] A表現(1)歌唱 及び [共通事項] (1)
---	---

#### 1 題材の目標

- 曲想と旋律や強弱、音楽の縦と横との関係、歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて声を合わせて歌う技能を身に付ける。
- 旋律や強弱、音楽の縦と横との関係などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。
- 曲想と旋律や強弱、音楽の縦と横との関係、歌詞の内容との関わりについて興味をもち、音楽活動を楽しみながら、友達と協働して表現を工夫したり、思いや意図をもったりする学習に主体的に取り組む。

## 2 指導事項との関連

A 表現(1)歌唱 ア、イ、ウ(イ)

[共通事項] (1) ア、イ

(本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「旋律」、「強弱」、「音楽の縦と横との関係」)

## 3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① <b>知</b> 曲想と旋律、音楽の縦と横との関係、歌詞の内容との関わりについて理解している。 ② <b>技</b> 思いや意図に合った表現をするために必要な、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。	<b>思</b> ① 旋律や歌詞などからふさわしい歌い方や、強弱の表現を生かしてどのように歌うかについて思いや意図をもっている。 <b>思</b> ② 音楽の縦と横との関係、歌詞などからふさわしい歌い方や、強弱の表現を生かしてどのように歌うかについて思いや意図をもっている。	<b>態</b> ① 曲想と旋律や強弱、音楽の縦と横との関係、歌詞の内容との関わりについて興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に二部合唱の学習活動に取り組もうとしている。

## 4 検証内容

### (1) 児童に自信をもたせるための指導の工夫

- ・児童が気付いたことや感じ取ったことなどから課題を設定し、解決していく学習過程を重視した指導計画を作成する。
- ・楽譜に学んだことなどを書き込むことで思考を整理し、友達に伝えられるようにする。
- ・題材のまとめの場面で、歌詞の内容について改めて考える発問をしたうえで、「中学生になった自分の姿をイメージして、羽ばたくように歌おう！」と伝えることで児童の考えを深め、児童の気付きへの価値付けをする。

### (2) 児童同士が主体的・対話的に学びを深め、高め合う場面設定の工夫

- ・児童が学習者用端末を活用して気付きや考えを記述し、思考を整理して自らの学習状況を把握できるようにする。
- ・児童の考えを広げるために考えを伝え合う場面を設定し、学習者用端末を活用して意見を共有したり共感したりできるようにする。また共有、共感したことを歌って試したり聴き合ったりし、自ら演奏表現のよさを聴き分けて、言語化できるようにする。
- ・ルーブリックを児童と教師が共に考え、意見交流をしながら、相互評価を行う場面を設定する。

### (3) 共通事項や各領域・分野に応じた系統的な題材計画の工夫

- ・常時活動として音楽に合わせて体を動かす活動や二声に分かれた発声を行い、既習事項を想起したり、思いや意図に合った表現をするために必要な技能を身に付けたりすることができるようにする。
- ・第4学年の「もみじ」、第5学年の「生命が羽ばたくとき」、第6学年の「明日を信じて」で曲想と音楽の構造との関わりについて学んだことを生かし、本題材で扱う「未来への賛歌」の声部の重なり方の違いと曲想との関わりを生かした音楽表現につなげていける

ようにする。

### 5 題材の指導計画と評価計画（全5時間）

次時	○学習内容 ・学習活動	・具体的な手だて <small>本研究での視点・手だて</small>	知・技	思	態	
第一	「未来への賛歌」の曲想と各声部の重なり方や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、旋律や音楽の縦と横との関係が生み出すよさを感じ取る。					
次	1	<p>○「未来への賛歌」の曲の特徴を理解し、よさや美しさを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞を音読しながら、歌詞の内容が伝わる発音や発語の仕方を確かめる。</li> <li>曲の構成を理解する。</li> <li>旋律の流れを捉え、歌詞との関わりを生かして上声部を歌う。</li> <li>歌ったり音読したりして、よいと思ったところや感じたこととその理由を教科書に書き込む。</li> <li>全体で共有したことを生かして歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞の意味を捉え、言葉の抑揚に気を付けて音読するよう助言する。〔1)－②〕</li> <li>〔A〕〔B〕〔C〕の3つの部分に分かれていることや、演奏順序を理解できるようにする。〔1)－①〕</li> <li>既習事項を意識して歌うよう助言する。〔3)－②〕</li> <li>この曲の中でよいと思ったところや感じたことを拡大楽譜に記入し、全体で共有して表現に生かせるようにする。〔1)－①〕</li> <li>本時で学習したことを生かして歌うよう助言する。〔1)－②〕</li> </ul>			
	2	<p>○「未来への賛歌」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発音や発語を意識した二声の発音を行う。</li> <li>音の高さや発音に気を付けて上声部と下声部を歌う。</li> <li>上声部と下声部の重なり方の特徴について考え、自分のパートを決め、二部合唱をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二部合唱の学習につなげられるようにする。〔3)－①〕</li> <li>楽譜に色分けをし、重なり方の特徴を理解できるように支援する。〔1)－①〕</li> <li>旋律の流れを感じながら歌うよう助言する。〔1)－②〕</li> </ul>	①	知	発言
				・記述	・聴取	
第二	曲想と旋律や強弱、音楽の縦と横との関係、歌詞の内容との関わりから友達と協働して表現を工夫し、思いや意図をもって、声を合わせて歌う。					
次	3	<p>○「未来への賛歌」の旋律にふさわしい表現の工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>曲想と強弱記号や歌詞との関わりから、〔A〕～〔B〕をどのように歌いたいか考え、情報共有アプリケーションに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「なぜこの強弱記号が付いているのか」（歌詞との関わり）を青字で、「どのように歌いたいか」（思いや考え、強弱記号など）を赤字で記入し、思考を整理できるようにする。〔2)－①〕</li> </ul>			

	<p>①なぜこの強弱記号が？ 一番伝えたいことを伝えるためにクレッシェンドしている。気持ちの高ぶりを表現していると思う。</p> <p>②どのように歌いたい？ <b>児童の記入例</b> 付点がついていて、音も上がっていて、アルトパートの追いかけもあるので、ワクワク感や心が晴れていく様子を表現したい。「そこ」という歌詞に気持ちを込めたい。「その手に～」で遠くに届けて伸ばしたい！</p> <p>・グループ活動時のループリックを考える。</p> <table border="1" data-bbox="368 622 1166 815"> <tr> <th colspan="2">教師と児童で考えたグループ活動時のループリック（事例）</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>・友達の考えのよさを見つけて何度も歌い試し工夫して歌う。 ・歌詞の意味を考えながら強弱、速さ、音程を意識して歌う。 ・工夫して歌を改善する。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>・友達の考えを聞いて歌い試す。 ・自分の意見も伝えて比べて試す。 ・強弱に気を付ける。</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>・友達の考えを聞かない。歌わない。</td> </tr> </table> <p>・グループ活動をする際、何が大切かを考えるよう促す。 (2)－②</p>	教師と児童で考えたグループ活動時のループリック（事例）		A	・友達の考えのよさを見つけて何度も歌い試し工夫して歌う。 ・歌詞の意味を考えながら強弱、速さ、音程を意識して歌う。 ・工夫して歌を改善する。	B	・友達の考えを聞いて歌い試す。 ・自分の意見も伝えて比べて試す。 ・強弱に気を付ける。	C	・友達の考えを聞かない。歌わない。	<p>・グループ活動をする際、何が大切かを考えるよう促す。 (2)－②</p> <p>・グループごとに互いの考えを伝え合い、考えたことを様々に歌い試す。</p> <p>・工夫したことを生かして全体で通して歌う。</p> <p>・活動時のループリックを確認し、本時の学習を振り返る。</p> <p>・何度も歌い試して、よいと思える表現を見付けるよう言葉掛けをする。 (2)－②</p> <p>・拡大楽譜にグループの考えを記入し、全体で共有して表現に生かせるようにする。 (2)－②</p> <p>・友達の考えを聞いたり、全体で歌い試したりして考えたことや思ったことを情報共有アプリケーションに記入する。 (1)－①</p>	<p>① 発言 ・ 記述 ・ 聴取</p>
教師と児童で考えたグループ活動時のループリック（事例）											
A	・友達の考えのよさを見つけて何度も歌い試し工夫して歌う。 ・歌詞の意味を考えながら強弱、速さ、音程を意識して歌う。 ・工夫して歌を改善する。										
B	・友達の考えを聞いて歌い試す。 ・自分の意見も伝えて比べて試す。 ・強弱に気を付ける。										
C	・友達の考えを聞かない。歌わない。										
4	<p>○「未来への賛歌」の旋律にふさわしい表現を工夫する。</p> <p>・曲想、強弱記号、旋律の重なり方や歌詞との関わりから、<b>C</b>をどのように歌いたいと考えたことを確認する。</p> <p>①気付いたこと (旋律・重なり方・歌詞) <b>児童の記入例</b> 「ゆめを」という歌詞の部分がソプラノ→アルトの順になっていて、会話をするような感じになっている。</p> <p>②どのように歌いたい？ 「はばたこう」という歌詞のところは、ソプラノとアルトがきれいに重なるようにしたい。アルトの声もしっかりきいて、歌の最後で、歌詞の通りに羽ばたけるような感じで歌いたい。</p> <p>・活動時のループリックを考える。</p> <p>・グループごとに互いの考えを伝え合い、考えたことを様々に歌い試す。</p>	<p>・曲想、強弱記号、旋律の重なり方や歌詞との関わりから気付いたことを、児童が歌い方の工夫につながるよう助言する。 (1)－②</p> <p>・前時のループリックに付け加えるようにする。 (2)－②</p> <p>・何度も歌い試して、よいなと思える表現を見付けられるよう言葉掛けをする。 (2)－②</p>	<p>① 発言 ・ 記述 ・ 聴取</p>								



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫したことを全体で共有し歌い試す。</li> <li>・曲全体を見通して、工夫したことを生かして全員で通して歌う。</li> <li>・グループ活動時のループリックを確認し、本時の学習を振り返り情報共有アプリケーションに記入し共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拡大楽譜にグループの考えを記入し、全体で共有して表現に生かせるようにする。(2)-②</li> <li>・これまでの学習で考えたことを想起し、考えを生かして歌うよう助言する。(1)-②</li> <li>・友達の考えを聞いたり、全体で歌い試したりして考えたことや思ったことを情報共有アプリケーションに記入する。(1)-①</li> </ul>		② 発言・記述・聴取
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「未来への賛歌」の曲全体を味わって二部合唱をする。</li> <li>・歌詞の内容が伝わるように音読したり、前時までの学習を生かしてグループで歌ったりする。</li> <li>・友達と声を合わせて曲全体を味わい、歌う喜びを感じて二部合唱する。(深めタイム)</li> <li>・自分たちの演奏を録音して聴き、学習のまとめを記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1時に学習した発音や発語の仕方や、グループで考えた表現を拡大楽譜で再確認できるようにする。(1)-①</li> <li>・歌詞の内容について改めて考える発問をしたうえで、「中学生になった自分をイメージして、羽ばたけるように歌おう！」と言葉掛けをし、同じ歌詞を繰り返す部分でより気持ちを込めて歌えるようにする。(1)-②</li> <li>・本題材を通して学んだことを情報共有アプリケーションに記入してまとめられるようにする。(1)-①</li> </ul>		② 技 聴取
				① 発言・記述・観察

## VI 研究の成果と課題

### 1 成果

#### (1) 児童に自信をもたせるための指導の工夫

- ・学習者用端末を活用して、児童が思いや意図を言語化し、互いに共有し、認め合えたことで自信につながった。
- ・個々で思考する活動とグループや学級全体で思考する活動を往還的に取り入れながら、指導計画を工夫したことで、個々の思いや考えを深め、互いに高め合うことができ、児童が思いや考えに自信をもつことにつながった。
- ・教師が児童の思いや意図を言語化することで、どのように表現したいのかが明確になった。また、それを教師が価値付けることによって、児童が自信をもって表現することにつながった。
- ・「深めタイム」により、児童が音楽のよさや面白さを実感し、表現できるようになった。

#### (2) 児童同士が主体的・対話的に学びを深め、高め合う場面設定の工夫

- ・学習のねらいに沿った思考ツールを使うことで思考が整理され、一人一人が思いや考え

- をもつことにつながり、表現に生かすことができた。
- ・ループリックを設定し、協働的な学びをする中で、児童が主体的・対話的に学習へ取り組むことができた。
  - ・発達の段階に合わせ、学習者用端末を活用し、児童が容易に操作できるような教材を工夫することで、何度も表現して試したり聴き合ったりしながら、自分や友達の考えを共有し、個々の思考を深め、高め合うことができた。
- (3) 共通事項や各領域・分野に応じた系統的な題材計画の工夫
- ・題材のねらいに沿った段階的な常時活動を取り入れることで、ねらいに迫る学習に結び付いた。
  - ・共通事項や各領域・分野での積み重ねを生かした指導計画を作成し、実施したことで、既習事項を生かして学びを深めることができた。さらに検証授業後、児童には次の題材で既習事項を生かす等の変容が見られた。
- (4) その他（検証授業後の児童の変容）
- ・学習者用端末を活用したことで、一部の児童が発言するだけでなく、全員が意見を表出して伝え合うことができ、その後の音楽活動に生かすことができた。そのことで学級全体の仲間意識が高まり、次の題材でも自信をもって表現したり、意欲的に学習に取り組んだりする姿が見られた。
  - ・繰り返しのリズムを用いた曲をボディ・パーカッションで演奏する際に、反復の仕組みに気付き、強弱の工夫をするなどして、リズムの面白さを感じ取りながら、主体的に演奏することができるようになった。
  - ・他学年との交流会の際に、これまでに学習した合唱曲を披露したいという思いや、教室でも音楽科で学習した曲を「歌いたい」という児童の思いが生まれた。日頃の学校生活の場面で音楽科の学びを生かす児童の姿が見られた。

## 2 課題

- (1) 児童に自信をもたせるための指導の工夫
- ・児童が自信をもって表現できるよう、適時性のある言葉掛けや「深めタイム」を、他の題材でも更に実践していくことが課題である。
- (2) 児童同士が主体的・対話的に学びを深め、高め合う場面設定の工夫
- ・児童自身が学習のねらいに沿った思考ツールを選択することができるよう、他教科等とも連携して継続的に思考ツールの活用に取り組む必要がある。
  - ・ループリックを教師と児童が考えて設定する際に、評価基準の妥当性や信頼性を高められるよう、更に実践や研究を重ねていく必要がある。
- (3) 共通事項や各領域・分野に応じた系統的な題材計画の工夫
- ・様々な題材に合った常時活動を設定できるよう、更に教材研究を進めていくことが必要である。
  - ・6年間を見通して、系統的な題材計画を立てたり、題材間の共通事項の関連が分かるような指導計画を立てたりする必要がある。

## 令和4年度 教育研究員名簿

### 小学校・音楽

学 校 名	職 名	氏 名
中 央 区 立 明 正 小 学 校	主 任 教 諭	◎道 嶋 美 音
杉 並 区 立 桃 井 第 二 小 学 校	主 任 教 諭	荒 井 綾 子
板 橋 区 立 緑 小 学 校	主 任 教 諭	長 嶋 令 奈
練 馬 区 立 開 進 第 四 小 学 校	主 任 教 諭	ブ ラ ウ ン 暁 子
足 立 区 立 青 井 小 学 校	主 任 教 諭	小 原 梢
国 立 市 立 国 立 第 八 小 学 校	主 任 教 諭	花 房 優
小 笠 原 村 立 小 笠 原 小 学 校	主 任 教 諭	細 谷 晋

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課

指導主事 井戸 正利

令和4年度  
教育研究員研究報告書  
小学校・音楽

令和5年3月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課  
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6849